

|                                 |              |                          |   |  |
|---------------------------------|--------------|--------------------------|---|--|
| 4-11                            |              | 主題                       | 満足度の高い利用者本位のショートステイへの<br>取り組み   |  |
| 個別ケア                            |              | 副題                       | 在宅生活の継続に向けた個別ケアを目指して  |  |
| 利用者本位の生活                        |              |                          |   |  |
| 研究期間                            | 36ヶ月         | 事業所                      | 社会福祉法人 武尊会 短期入所生活介護事業所 伊興園  |  |
| 発表者：大山 竜二（おおやま りゅうじ）            |              | アドバイザー：丸山（まるやま）・齋藤（さいとう） |   |  |
| 共同研究者：田中・桑島・古寺・持田・佐々木・高野・太田・小野寺 |              |                          |   |  |
| 電話                              | 03-5838-1500 | メール                      | <a href="mailto:lko-jimu@busonkai.or.jp">lko-jimu@busonkai.or.jp</a>            |  |
| FAX                             | 03-5838-1501 | URL                      | <a href="http://www.busonkai.or.jp/ikoen/">http://www.busonkai.or.jp/ikoen/</a> |  |

|                              |  |
|------------------------------|--|
| 今回発表の<br>事業所や<br>サービスの<br>紹介 | 伊興園は、特養養護老人ホームの定員 130 名と併設ショートステイの定員 26 名、合計 156 名の居室が 3 フロアに分かれている従来型の施設で、ご利用者の尊厳を保持し有する能力に応じた自立した日常生活を安心して送っていただけるように、個別ケアに力を入れて取り組んでいる施設です。 |
|------------------------------|--|

|   |
|---|
| <p>《研究前の状況と課題》</p> <p>平成13年5月の開設当初から、ショートステイご利用者の居室は特養と同様に3フロアに分散されていた。その為、定期的に利用される方でも利用都度フロアが変わってしまうことや、フロアの中でも数が多く介護度の重い特養ご利用者へのサービスが中心となる傾向により、ショートステイを利用されている方の ADL に合わせたレクリエーション活動やサービスを提供することが難しく、ショートステイご利用者から「いつも同じフロアが良い」「つまらない」などの要望や感想が寄せられていた。</p> <p>このような状況を改善するために検討を重ねた結果、平成20年6月からショートステイ26名の1フロア制を導入し、ショートステイご利用者を対象とした、充実したサービスやレクリエーション活動を提供することが課題であった。</p> |
|---|

|   |
|---|
| <p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>ショートステイの1フロア制がスタートしたことにより、ショートステイ担当職員による、ショートステイご利用者を中心とした活動や一定のサービスを提供できる環境が整った。</p> <p>在宅での生活を保ちながら、ショートステイを繰り返し利用していただき、ご利用者個々のニーズに合わせたサービスや、達成感を感じていただけるレクリエーション活動等の提供により生活意欲の向上へと繋がることを期待して、提供するサービスの幅を広げ、ご利用者とご家族の満足度が得られる、充実したサービスの提供ができるよう取り組んだ。</p> <p>また、この取り組みによりショートステイ担当職員のやりがいに繋がることを期待しつつ、更なるサービスの質向上を目指した。</p> |
|---|

### 《具体的な取り組みの内容》

○レクリエーション活動においては、職員の中にレクリエーション担当者を設け、定期的に会議を行い、評価・改善点・方向性を確認し、より個別のニーズにも応えられる様に活動内容や提供方法について話し合った。

○顔見知りのご利用者同士が同テーブルを囲んで座っていただく等の配慮により、世間話をするところから交流が始まり、次に利用した時にもお互いが自然に会話を交わすことができるような、ショートステイご利用者同士の「仲間づくり」を積極的に行った。

○ご家族と短期生活相談員、及び介護職員と短期生活相談員との情報の共有化を図る手段として、①フェースシートの作成、②利用中の様子を記入するケース記録の活用、③ご利用者やご家族から家庭での様子を確認し、月に1度の施設内担当者会議において、担当者間での共通認識を図っている。  
(センター方式の導入)

○在宅では布団で寝ている方については、畳に布団を敷き対応するなど、ご家庭での生活により近い環境での、サービスの提供に努めている。

### 《取り組みの結果と評価》

○外部のボランティアや専門家からの意見なども取り入れることで、より良いサービスの提供を職員が意識し、いかに次回の利用へ繋ぐことができるかを心掛けるようになっていく。

○ショートステイご利用者同士の「仲間づくり」を積極的に行ったことにより、「友達が多いので楽しみ」「人と話ができるのが幸福だ」などというご利用者からの声が聞かれるようになった。

○情報の共有化を図ることにより、身体状況の変化に迅速に対応した個別サービスが提供できるようになった。

### 《まとめ》

以前は3フロアに分散していたサービス提供フロアを1フロアに変更し、ショートステイのフロア全体が活気のある充実した生活の場になった。また、ショートステイ担当職員を配置することで、職員が専門的に関わることができ、日課の充実や個別ケアに力を入れられるようになり、ショートステイとしての運営自体が確立された。

今後も継続して様々な取り組みを実践し、より充実した活動、サービスの提供に繋げていきたい。

### 《提案と発信》

ご利用者の尊厳を保持する為には、ご利用者のニーズを中心に考えた活動の工夫を心掛けていくことが大切であり、また、職員だけでは見過ごしてしまっているような事でも、ボランティアや他の専門家等の意見導入を進めながら、第三者の目をフルに活用した取り組みができるようにすることが必要と考える。

### 【メモ欄】